

『日本児童文学』(元・前・現)編集長座談会

児童文学の実験場として



きどのりこ・宮川健郎・長谷川潮・西山利佳・いずみたかひろ
司会 奥山 恵(編集部)

2015年10月22日 於：日本児童文学者協会事務局

●それぞれの時代を振り返って

奥山(編集部) みなさんお忙しい中をお集まりくださり、ありがとうございます。今日は一九九六年以降、つまり協会創立五〇周年の後、編集長を務められた皆さんにお集まりいただきました。早速ですが、それぞれの時代を思い出すということで、編集長時代に印象に残っている出来事を一言ずつお願いします。まず、九五年の二月号から編集長だったきどのりこさんから……。

きど はい。社会的なことから申し上げると地下鉄サリン事件や、阪神淡路大震災がありました。協会の歴史としては九六年に関英雄先生がお亡くなりになり、九月号に追悼号を担当しました。また九六年三月号では「日本児童文学者協会の五〇年」という特集をやらせていただきました。この時代は隔月刊ではなく月刊でした、大変だったのですけど、編集委員の方々、上笙一郎さん、中尾明さん、藤田のぼるさん、はたちよしこさん、細谷建治さん、山末やすえさんという方々がサポートしてくださり、本当にありがたいことでした。

奥山 九七年一月号の後、三・四月号から隔月刊に替わりまして、世紀をまたぐ時期に、砂田弘さんの編集長の時代となります。砂田さんは、〇八年に亡くなられ、本日ここに同席していただけなかったのは、本当に残念です。